

# 令和3年度 社会福祉法人ほっと未来 SOUZOU 舎事業報告書

事業年度（期間）：令和3年4月1日～令和4年3月31日

## I、基本方針

- (1) 自閉症スペクトラムや重度の知的障害の支援、意思決定支援を体系的に実践し、適正な支援を受けられていない障害者、通所できない障害者、引きこもり等の方に対し、各事業所が取り組みを進めていく。
- (2) 人口減少からくる労働力減少を業務の適正化・効率化を図ることと人材育成の方法を見直し、新しい時代のサービス提供体制のシステムを構築する。
- (3) 受益者にとっても働き手にとってもよりフラットで合理性のある実践を行い、福祉の思想を切磋琢磨するべく各関係機関とコミュニケーションを円滑に行い、地域福祉へ貢献できるよう取り組む。

## II、運営方針

- (1) 障害者が夢中になれることを作る支援
- (2) 利用者、職員とで協力し内外にファンを作る
- (3) 福祉の心を育てる人材育成
- (4) 事務局機能の構築

## III、本年度の重点目標

- (1) サービス提供状況の安定
- (2) 適切な理事会運営
- (3) 機能的な各会議の開催

## IV、目標に対しての達成度：

事業収益目標 119,110,000 円 実績 114,795,405 円 達成率 96.3 %

- (1) サービス提供状況の安定

→スタート当初は最低限の人員はそろっていたが、支援員・指導員の退職により、安定したサービス提供はできなかった。また、定員に達する利用者の獲得もできなかった。

	アジュール 生活介護	えんじょい 生活介護	アジュール 放課後デイ	えんじょい 放課後デイ	居宅	行動援護	移動支援
稼働日数	253	253	245	285	1476	6580	1416
利用人数	1977	2699	1427	2053	544	2742	372
稼働率	32%	66%	58%	72%	36%	40%	26%

※サポートセンターほっとの数字は稼働日数欄を契約時間、利用人数欄はサービス提供時間を記載した

- (2) 適切な理事会運営

→定時の理事会と評議員会は開催できた。しかし、コロナ過でリモート会議となることが多く、

ZOOM の運用については、操作方法などの課題が残った。

(3) 機能的な各会議の開催

→当初決定した、各会議・委員会等は定期的に開催できた。しかし、機能や成果として不十分であるので改善が求められる。

V、行動計画研修及びOJT、危機管理担当の役割結果

(1) 障害者が夢中になれることを作る支援

- ・昨年度策定した採用基準や教育方法の運用
- ・社会福祉法人や新しい時代の人材確保に向けた戦略策定

→採用基準や採用時評価表については活用できた。

年度の途中で採用のスピードアップを目的とし、筆記試験や採用実習を省略する等改善を図った。

→人材確保に向けた戦略は策定できなかった。

(2) 利用者、職員とで協力し内外にファンを作る

- ・利用者、職員共に情報発信を行う
- ・新しい取り組みや福祉の世界を業界内外に発信する戦略策定

→令和3年度は戦略をたてられずに終わってしまった。

(3) 福祉の心を育てる人材育成を行う

- ・障害福祉の原点、これからの障害福祉の未来を語る人材交流
- ・障害福祉だけでなく、介護医療・地域住民との協働を通しての共生社会の構築

→アジール祭の開催により、地域住民の方に法人の認知は広がった。

→コロナ過で一部にはなってしまったが全国地域生活支援ネットワークでの人材交流を行うことができた。

(4) 事務局機能の構築

- ・収支の分析資料の作成
- ・BCP策定、防災訓練（自治会と合同訓練含む）

→第3次の補正予算を経て、令和3年度の収支資料は作成できた。しかし、分析や資金繰りなどを提案できるまでには至らなかった。

→BCPの策定はできたが、自治会等を含めた合同訓練は実施できなかった。規模が大きくなる為、QC委員会と連携した実施が必要であると感じた。